

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 6

2005年10月発行

福祉教育

総合学習や福祉教育についての事業が車椅子やアイマスクの貸し出しだけに終わっているのではないか、福祉教育に取り組んでいくために勉強をしたい、学校の先生方とともに福祉教育に取り組んでいきたい、そんな熱い想いを持った社協職員たちが旭区にいました！旭区社会福祉協議会から「福祉教育の取り組みを一緒にしませんか」と声をかけていただきました。今年3月に行った旭区の小中学校の先生方へのアンケート集計結果をもとに話し合い、この夏休みに2回の講座を開催しました。

1. 福祉教育の目指すもの

～学校と地域が連携することの意義～

2005年7月27日(水) 13:00～17:00

旭区在宅サービスセンター 3階多目的室

講師 新崎国広氏(大阪教育大学教養学科発達人間福祉学講座)

主催 旭区社会福祉協議会 & 地域生活サポートネットほうぷ

参加者 15名(小中学校教員 9名、他区社協職員 4名、大学生 2名)

新崎国広氏を講師に課題提起型の講座やさまざまなゲームを通して「頭と心と身体を使って」の気づきから、福祉教育の目的と、根っこの部分の価値観を子ども達に伝えていくことについて、教員と社協職員とがともに考え学びました。また、休憩時間に旭区にある「あゆみ工房」「飛行船」の福祉作業所の方々にクッキーやパンを販売していただき、一緒にゲームにも参加していただきました。地域福祉の重要性が言われ地域を基盤とした福祉教育の展開が課題です。一方で、学校においては「総合学習の削減・ゆとり教育の見直し」などが検討され福祉教育への逆風が吹こうとしています。このような時代だからこそ、学校と地域とが協働で福祉教育を行い、子ども達の共に生きる力を育みインクルーシブな社会を創造していくことが大切です。

参加者感想

- ・教師は福祉の専門家にならなくてもいいことがわかった。教えることの原点を学べた。
- ・人権教育とのからみがある。現場で苦勞することは、子ども達のエンパワメントをどう引き出すか。上から下へ教えるのではなく、受容的に安心感を与えることを学ばなくては。
- ・教室でワークショップをすると、小学校では、リーダーシップをとる子、泣く子、いろんな子どもがいる。中学では、興味のない子どもへの対応や、まとめが難しく悩む。

2.いっしょにつくろう！福祉教育のプログラム

2005年8月4日（木）10：30～17：00

旭区在宅サービスセンター 3階多目的室

主催 旭区社会福祉協議会 & 地域生活サポートネットほうび

協力 自立生活センター・あるる & 自立生活夢宙センター

ファシリテーター 新崎国広氏

参加者 13名（小中学校教員 4名、他区社協職員 3名、大学生 6名）

第2回では、都島区の「自立生活センターあるる」と住之江区の「自立生活夢宙センター」の協力を得て、意見交換を中心に行いました。最初に全員でゲームをして緊張をほぐし関係作りを行い、ネットワークやコミュニケーションの大切さを再確認しました。その後、2グループ（1グループ：教員2名、他区社協職員2名程度、障害当事者2名&サポーター1名、大学生3名、主催スタッフ4名という構成）に分かれ、自己紹介と福祉教育への思いなどを述べ合いました。お昼休憩は、4グループに分かれて昼食に出かけました。障害当事者と一緒に「ご飯を食べる」のが初めての方もおられて、ここでも「体験」があったようです。午後は、実際の授業にどのように取り組むか、授業案作成について2グループで話し合いました。

Aグループでは、小学校における授業について話し合いました。子ども達に伝えたいことは何なのか、意見の交換をしました。Bグループでは、中学校における授業について話し合いました。思春期にある中学生に自主的に取り組んでもらい、考えを深めてもらうにはどうすれば良いのかと悩みながら、実際の授業案を2つ作成しました。

2グループ共通のキーワードは、「違い」と「振り返り」だったと思います。「違い」に目を向けるなかから、「同じ」や「一緒」や「対等な関係」について考えていくこと。机上だけの一方的な学習でなく体験（生徒同士の討論やゲストとの意見交換を含む）を通じた学習を行い、その体験やその時感じたことを振り返り、想いを共有し合い、考えを深めることの大切さ。グループの発表の後、参加者それぞれの想いを伝え合い「振り返り」をして終了しました。

参加者感想

- ・「違い」を理解したうえで「同じ」「一緒」を考えることの大切さを学んだ。
- ・障害は、「その人」が持っているんじゃないくて、まわりが作っているもの。その壁を崩したい。社会一般に、弱い・可哀想という先入観(情報)がある。直接話し関わるのが大切。
- ・「こうあるべき」という考えがとれた。切り口はいろいろあると気づいた。
- ・いつも学習計画を1人で立ててきた。大勢でディスカッションしながら作れて良かった。
- ・みんなで考えていくプロセスの大切さ、話し合っ決めていくことの大切さを学んだ。
- ・福祉教育は、学校の中だけではできないと思った。いろんな人の話を聴く場が必要。
- ・今日作成したような授業ができればいいが、将来、教師になった時、本当にできるだろうか。自分1人ではできないのではと思った。その思い(揺らぎ)を忘れないようにしたい。
- ・福祉教育って何かと改めて考えた。一人ひとりがかけがえのない大切な存在だと伝えたい。
- ・自分自身が学んで成長して、子どもと接していきたい。
- ・障害をもつ人と初めて一緒に食事に行った。一緒にいることの大切さを感じた。
- ・学校だけではなく地域を巻き込んでいく。何かあったらみんなで考えようやという姿勢。積み重ねていくことの大切さ。

レクリエーションイベント

part. 1 つくろう！あそぼう！夏休み！！

2005年8月5日(金) 10:30~15:00

大阪市立城北市民学習センター AMアトリエ PM講堂

協力 千里金蘭大学人間社会学科社会福祉コース

参加者：子ども9名、ボランティア：19名(大学生17名、専門学校生1名、社会人1名)

夏休みに障害をもつ子ども達やその兄弟がのびのびと遊ぶことのできる場を作ろうと、学生さん達により企画・運営をしたイベントです。この日は、夏休みの登校日と重なった学校が多く、保護者の関心は高かったものの、参加者が少なかったです。でも、内容はとっても充実。サンドイッチの材料もいろいろ揃えられ、手作りのゲームで遊びながら、ゆったり和やかに楽しむことができたイベントとなりました。「〇〇ちゃん(ボランティアの学生さんの名前)の分も作ってあげる」という子どもの優しい言葉に感動した学生さん達もいました。

- ① 受付：保護者に子どものようすを聞き、お子さんを預かりました。(事前に、保護者にお子さんのようすを連絡用紙に書いてもらい、担当ボランティアは、それを把握していた。) 運営担当ボランティアが、子ども達と保育ボランティアに本日のイベントの流れを説明。
- ② サンドイッチを作って食べよう！
アトリエにて、スライスした食パンに、卵、ハム、ツナ、きゅうり、チーズ、ジャムなど、それぞれが好きなものをはさみ、みんなで食べました。
- ③ ゲームで遊ぼう！
千里金蘭大学人間社会学科社会福祉コースの学生さん達手作りの的あて、ボーリング、魚釣りなどのゲームをしました。学習センター前(屋外)と講堂にて遊びました。

参加者アンケートから・・・

- ・ 今回、初めて自分でサンドイッチを作ることができて、とても喜んでいました。早速、翌日姉と2人で作っていました。大きな自信になったようです。
- ・ 帰宅後、「ぜえーんぶたのしかった！」と言ってました。
- ・ 姉も参加させていただいたので、本人も「おねえちゃんと一緒に」と不安もなく楽しめたようでよかったです。
- ・ お土産にたくさんのサンドイッチを持って帰ってくれました。おいしかったです。暑い時なので、お父さんは残念ながら食べることはできませんでした。もったいなかったです。



ボランティアの感想から・・・

- ・ 子ども達がとてもかわいくて、自分自身も楽しめました。このイベントに参加して「障害」というものがどういうものかわからなくなりました。誤った先入観を持つことは怖いと思いました。なぜ、この子達が「障害児」と呼ばれるのか、障害ってなんだろうと考えました。
- ・ 役割りの打ち合わせやおもちゃ作り、レクリエーションの企画運営は大変だと思った。
- ・ 1人1人が持つ自分らしさを見ることができ、しっかり向き合うことの大切さを学んだ。

part. 2 楽しく♪自由に☆お絵かきしよう!!

2005年8月27日(土) 11:00~15:00

大阪市立城北市民学習センター アトリエ

協力 千里金蘭大学人間社会学科社会福祉コース

参加者：子ども19名、保護者9人、ボランティア：26名(大学生22名、専門学校生4名)

夏休みの障害児余暇活動支援の第2弾は、お絵かきしようというイベントでした。これも、千里金蘭大学人間社会学科社会福祉コースの学生さん達が企画・運営をし、学習センターのアトリエの床や壁にダンボールや新聞紙を敷いて、汚れなどを気にしないで思いっきり絵を描ける環境を作っていました。

今回は、参加希望者が大変多く、また、初めてこのようなイベントにお子さんを参加させるという方もおられて保護者の付き添いもあり、アトリエは満員状態でした。絵の具や手を洗う場所を考えてアトリエで行いましたが、講堂くらいの広い場所の確保が必要だったかもしれません。走りまわる子ども、車椅子に座っている子ども、おしゃべりの上手な子ども、笑顔でコミュニケーションをする子ども、さまざまな障害をもつ子どもたちと兄弟で熱気あふれるイベントになりました。満足いく絵を描きあげて夏休みの宿題にしたお子さん、全く絵に興味を示さず学生さんと遊んでいたお子さん、子ども達の過ごし方はさまざまでしたし、絵を描かせたい、社会性を養いたいなど、親も想いもさまざまでしたが、子ども自身がそれぞれに楽しい時間を過ごすことを一番大切にしたいと思いながら運営をしました。

お絵かきの前に、お昼ごはんを買いに行くというプログラムを入れました。子ども達に「自分で選んで」「お金を払い買い物をする」という体験をして欲しいと考えました。ボランティアの学生さん達にとっても、子どもの要求をキャッチする学びの場ともなったようです。子どもの欲しいものがわからなくて困ったり、商品の菓子袋をすばやく破ってしまい購入しなければならなくなったり、ハプニングも続出。でも、あたり前の暮らしの中ではいろんな出来事が起こります。それが「地域生活」なのだと思います。何でも体験、子どももボランティアも。それを繰り返し、積み重ね、それぞれが成長して欲しいと思います。

① 受付：保護者に子どものようすを聞き、お子さんを預かりました。付き添われる保護者もありました。運営担当ボランティアが、本日のイベントの流れを説明しました。

② お昼ごはんを買ってきて、みんなで食べよう！

それぞれが行きたいお店を選び、その店で食べたいものを買いました。買ったお昼ごはんをアトリエで、みんなで食べました。お店選びの工夫は右のとおり。

③ 思い思いに絵を描こう！

絵の具を使って、ぬり絵、マーブリングなど選べるようにし、それぞれがやりたい方法で絵を描きました。切り貼りも行いました。机の上や床に模造紙を広げ、絵筆、はけ、布を丸めたものなどに絵の具をつけて描きました。最後に作成した絵を発表して記念撮影。後日、写真を参加者に郵送しました。



参加者アンケートから・・・

- ・ 夏休みの土曜日で、朝はゆっくり、お昼は会場で食べることができ、参加しやすかった。
- ・ 後で絵を見たら、暴れた様子もなく、いきいきと描いていて、とても楽しかったと思います。
- ・ お絵かきに3パターン用意され選べ、最後に子どもの作品として仕上げてくれて良かった。
- ・ 企画は良かったと思いますが、広い場所でのびのび描かせてやりたかったです。子どもにとっては落ち着かず、興味が持てず、周囲の人たちに迷惑をかけてしまっていたと思う。
- ・ ママから他人とのふれあいが大切だから、パパは子どもにべったりでなく離れていると言われていたので、昼食後は離れて見ていました。親としては、普段できない大きな紙に絵の具でお絵かきさせてやりたかったのですが、子どもの意志に任せていたら、やはり最初に人の少ない所に行っておとなしくぬり絵をしていました。
- ・ 日頃、自宅では「家が汚れる」「服が汚れる」と制限ばかり作って、子どもが心から楽しんでいるのか疑問でした。今回、水に濡れながらも、のびのびとお絵かきを楽しめたとボランティアさんから伺い、感謝と同時に大きな教訓をいただきました。
- ・ 兄弟がいないので、大きなお兄ちゃんお姉ちゃんと遊ぶことができ、刺激になって楽しかったようです。帰宅後も、遊んだ話をしてくれました。
- ・ 初めてこのようなイベントに参加するので不安でしたが、少しでも楽しめたらと思い参加しました。小さい頃は不安が強い子でしたが、最近はたくましくなってきたので、大丈夫かなと思ったのですが…、泣き続けてしまいました。本人が安心してリラックスして動き出すのを待つように学生さんにアドバイスをしたら良かったと思いました。



おひるごはんだ～！



さあ、描くぞ～

ボランティアの感想から・・・

- ・ 初めて車椅子の介助や食事の介助、トイレ介助を行った。どのおかずが食べたいかを知るのが難しかった。小さな子なのに抱きかかえて便座に座らせてあげるのが大変だった。意志疎通がなかなかできず戸惑った。不慣れなことばかりで子どもさんには申し訳なかったが、その子が笑顔でいてくれたのでとても嬉しかった。
- ・ 事前の連絡用紙の情報(子どもの)だけでなく保護者の方に聞くことの大切さを感じました。
- ・ 子どもの思いを理解できない自分に最初イライラしました。でも、伸ばした手の先や視線の先にあるもの、笑えば楽しいし、泣きそうな顔や怒った顔は気に入らないなど、子どもの行動や表情を見ていたら、その子のやりたいことが判ることに気づきました。
- ・ グループでレクリエーションすることの難しさを感じた。運営のあり方や援助の方法が適切であっただろうか。事前にボランティアの交流会や保護者からの研修なども行い(会報5号参照)、援助の共通理解を図ったつもりだったが、当日は戸惑う場面が何度かあった。
- ・ 人それぞれ楽しむ方法が違うと思うので、個人個人の楽しみ方を大切にしたいと思った。

お母さんが元気になるワークショップ

2005年9月13日(火) 10:00~12:00
旭大阪市立城北市民学習センター 研修室2、アトリエ
講師：子・己育ち相談「リリーフ」 小谷訓子氏
協力：旭子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」

参加者：大人：22名、子ども：23名

保育ボランティア：18名(学生：3名、一般：9名、きしゃぽっぽメンバー：5名)

吹田市でご活動のリリーフの小谷さんをお招きして、お母さんたちが、ホッと元気になるワークショップを開催しました。託児を行い、お母さんたちは子どもから離れ、いろいろなテーマで語り合いました。小さな子どもを連れて朝10時に来館されるのは大変だったと思いますが、みなさん開始時刻には集合され、このワークショップへの期待の大きさを感じました。同じ子育て中のお母さんたちと話し合ったり、小谷さんのお話を聴いたりする中で、それぞれが自分を見つめなおす時間になったのではないかと思います。

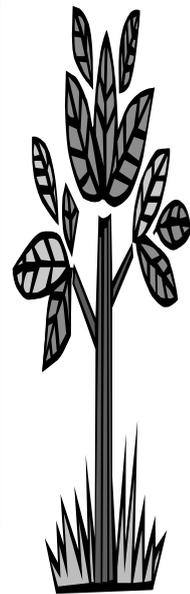
参加者22名中21名がアンケートを提出してください、21名の方全員がこのワークショップで「元気になった」と答えてくださいました。お子さんを託児室に迎えに行かれるお母さん達の笑顔が、アンケートの回答を物語っていました。

参加者アンケートから・・・

～今日のワークショップは?～



- ・リフレッシュできた ・すっきりした。
- ・いろいろ聞いたりできてよかった ・良い時間を過ごせた。
- ・不安だらけだったけど、前向きに頑張ろうと思った
- ・親も楽しめて、子どもも初めての親のいない2時間。勉強してくれたかな?と思う。また来たい。
- ・人に誉めてもらって、そういえば、最近子どもを誉めてないなあと思い、今日は何か誉めればいいなあと思っている。誉めるって大事なことだと思えてよかった。 ・たくさんの人に出会えて本当に良かった
- ・初めて会った方と色々な話ができて楽しかった。
- ・同じようなことで悩んでいる人がいると感じた。
- ・いろんな方の意見を聞いて前向きになった。
- ・さまざまな境遇の人がいて皆もやっぱり頑張っているんだという実感ができよかった。
- ・初めてこのようなワークショップに参加した。楽しく過ごすことができた。



～子育てについてお聞かせください～

ご自身の年齢は？

20才代	30才代	40才代
4人	16人	1人

子どもさんはいくつですか？

1才	4人
1～3才	18人
3～6才	6人
小学生	6人
中学生	0人
高校生	0人
(複数回答有り)	

子どもの人数

1人	12人
2人	5人
3人	4人

子育てを楽しんでいますか？

楽しい	18人
悩みがある	11人
自信がない	7人
しんどい	10人
(複数回答有り)	

(アンケート回収：21人)

楽しいが、悩みや自信のなさやしんどさ等もある：13人

楽しくない：3人

子育てを楽しんだり、安心して出産をしったりするためには、どんなサービスや制度やボランティア活動があればいいと思いますか？

- ・一時保育を気軽に頼める場所。子育ての協力者がいない人のために、気軽にリフレッシュできたり、保育してもらえそうな場所があちこちがあればいいのと思う。
- ・保育つきイベント
- ・出張して家に来てもらえるサービス
- ・親子ともども遊べる広場など
- ・話を聴いてくれる
- ・出産の前後の預かり制度など

子育ての中で、今、感じていることや困っていること

- ・ママ友達とお付き合い
- ・一人ひとりに充分時間をかけてあげられず、母親として自信がない
- ・すぐに泣くこと
- ・自分自身に余裕がなく、つい子どもに当たってしまう。
- ・主人の帰りが遅くて不満。出かけるのは好きだったが、自宅にこもりがちになっている。
- ・反抗期の子どもとの接し方

ボランティアの感想から・・・

- ・泣いている子どもさんは、お母さんじゃないとなかなか心を開いてくれない。
- ・ありのままを出せる子どもの姿にいつも感動。泣く、笑う、怒る、ストレートに感情を出せる子ども達に元気をもらう。
- ・4ヶ月の男の子の保育をした。初めての乳児で緊張とどうしようという気持ちでいっぱいだった。泣いているのも、なぜ泣いているのか戸惑うこともあった。でも、この短い時間で、ミルクの温度や乳児との接し方など、たくさんのことを学ぶことができた。
- ・あまり子ども達と普段関わることがないので、子ども達の元気よさに驚いた。その場で1つのもので遊ぶのではなく1つのことに飽きるとまた違うもので遊んだりとすごいパワーを感じた。



グループ紹介

子育てネットワーク きしゃぼっぽ

子育てネットワーク「きしゃぼっぽ」は、旭区内の子育てサークル・サロン・保育ボランティアなど13グループからなるネットワークです。それぞれのグループの活動内容は異なりますが、2003年「つながりあい支えあって、みんなで元気に楽しく子育てしましょう」との思いを持って集まり、グループ同士で情報交換し合ったり、講演会やワークショップなどの子育て講座を開催したりして活動しています。

今年の3月には、公園・保育所・幼稚園・公共施設・病院・お店など、メンバーが地域を駆け回りママの視点で集めた地域情報、ママのくちコミ情報誌「子SODATE OTASUKE MAP」(子育ておたすけマップ)を作成しました。マップ作成中考えさせられることもありましたが、たくさんの方々と出会え、学ぶことができました。このマップがみなさんの「地域への扉」となり、子育て中の方々がより楽しく、笑って子育てができるようになれば、嬉しく思います。

また9月には、旭区社会福祉協議会(社協)との企画・運営で、社協のホームページ子育て支援「子育て広場ぽっかぽか」を開設することができました。サークル・グループ紹介や情報カレンダーなどの子育てに役立つ情報を公開しています。

これからもたくさんの方々と出会い、つながり、ネットワークを広げ、孤立(閉じこもり)育児をなくし、みなさんが楽しく子育てができ、子ども達がいきいきと育っていく地域になっていくよう活動を続けていきたいと思っています。

*旭区社協のホームページ：子育て支援「子育て広場ぽっかぽか」
<http://sansan-asahi.or.jp/pokkapoka.html>

<参加グループ紹介>

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| ◎保育ボランティアグループぶちトマト | ◎みつくすじゅうす |
| ◎Dande Lion Kid's (ダンデ・ライオン・キッズ) | ◎たんぼぼ倶楽部 |
| ◎子育てトークのびのび | ◎高殿マシュマロKid's |
| ◎Gacha Gocha CLUB (がちゃごちゃクラブ) | ◎一時保育さくらっこ |
| ◎Friend's Net (フレンズネット) | ◎ママん家 |
| ◎ぐろーいん・まむ | ◎旭子育て支援センター |
| ◎NPO 法人地域生活サポートネットほうび | |

お問い合わせ先 電話・FAX 06-6953-2655
(NPO 法人 地域生活サポートネットほうび気付)

この夏、旭区社会福祉協議会と“ほうぶ”共催の福祉教育の2回講座（1、2ページ参照）に参加しました。第1回目の講座の時、講師の「『障害』で思いつくことは？」という問いで、私が思い浮かべたのは「足が不自由」でした。自分で自分の答えに驚きました。

我が家の長女はダウン症で、次女は身体的にも知的にも重度の障害児です。初めての子どもの「障害」があると知らされ、眠れない涙の夜を過ごしたことも、次女の、へたをすると命にかかわるかもしれない入退院の繰り返しも、それらを蹴飛ばして、「足が不自由」とは。

五年前に亡くなった私の父親の足が、不自由でした。「障害」ゆえに定職につけず、お金もうけの仕事からは遠かった、父です。頭が良くてハンサムで、学歴もなく経済力もない父のことを、大学時代の友人に話せなかった私です。私は父が大好きでした。そうか、今の私の原点はお父ちゃんなんや。そう思ってなんだかほっこり温かくなったのです。

重度の障害をもつ娘と共に生きるということは、面白くもあり大変でもあります。健常児という範疇にある息子が「ねえ、しゃべって」と妹に歌うように頼んでいるのを見ると、逃げ出したくなります。脳障害さえ起こしていなければ、可愛い片言で話していたはずなのに、などという今さらどうにもならない後ろ向きの考えが頭をよぎります。そんなときはあわてて思考停止にします。考えない、考えない。

“ほうぶ”に参加するときは、心を全開にして、感じることを、考えることができます。この日の講座も、参加されたメンバーと講師の新崎さんを信頼して、自分をめくることができました。私が今の生活を幸せだと感じることは、父が障害者だったからです。子育てに介護、仕事に家事と、忙しい毎日だからこそ、私には“ほうぶ”という自分自身をふりかえる場所が必要です。新しい出会いとつながり、自分自身の発見と行動。「生きる」ことがいっぱいあった“ほうぶ”です。



リレーエッセイ

★ 通園通学送迎ボランティア募集中！

地域では、多くの障害を持った子ども達が、保育所や学校、通園施設に通っています。

現在、通園・通学の付き添いは、家族によって行われています。でも、親が体調を崩したり、兄弟が体調を崩して親が離れられなかったり、ひとり親家庭で親が早くから出勤しなければならなかったりと、家庭の事情により付き添いが困難な場合があります。

そんな時、家族に替わって誰かが送迎をしてくれたら・・・。

朝や夕方のちょっとした空き時間、子どもと一緒に歩いてみませんか？

きっと、新しい発見や楽しみができると思います。

通園や通学の付き添い介助をしてくださるボランティアを募集しています。

活動報告 & 今後の予定

- **不登校児支援**：「不登校ねっと」8/8、9/12定例会。8/8は、「わが町にしなり子育てネット」、「西成区不登校問題連絡会」の事例を西成人権協会の寺本氏から報告していただきました。9/12は、各参加者の所属する団体の事業(活動)紹介と質疑応答を行いました。次回10/31。
- **セルフヘルプグループ支援**：『脳血管障害者・あさひの会』は、広報あさひ10月号に会紹介 & 会員募集記事が掲載されることになりました。「あさひの会出張例会」の開催について話し合いました。10/15旭区社協のふれあいバスツアーに5名の方が参加されます。次回10/17。
- **ネットワーク支援**：『子育てネットワーク・きしゃぼっぽ』は、8/22、9/12に例会を持ち、旭区社協HPの子育て支援情報について、9/13の「お母さんが元気になるワークショップ」の運営について、話し合いました。次回10/17。
- **旭区アクションプランへの参画**：現在、各区において、アクションプラン(地域福祉計画)の策定が住民主体で行われています。旭区においては、策定委員会のほかに、「アクションプランと一緒につくろう会」や「策定ワーキングチーム」などを設け、積極的な取り組みがされています。障害児者と家族・支援者の交流とニーズ掘り起こしを目的に、10月に開催される「和んで座談会」(下の地域情報参照)の企画・運営に参加しています。旭区内のいくつかの福祉作業所を回り、参加の呼びかけをしました。
- **生涯学習・講師派遣**：大学の授業のゲストスピーチ、ホームヘルパー養成講座、ボランティア養成講座、生涯学習講座の講師派遣や企画・運営協力などを行っています。

(編集後記)

☆今年には日程に恵まれ、職場やわが子、友人の子どもなど、3回の運動会を見ることができました。どの競技も演技も子どもたちが長い練習期間を越えてやりきった精一杯の姿が見られました。そんな中、子どもたち一人ひとりが主体なんだという、教員の姿勢が伝わるのは、競技や演技の途中で子ども同士のつながりが見えるときでした。どうやったら一緒に楽しくがんばりきれるのか、この日まで毎日考えて練習してきたんだろうな・・・と。(N)

☆娘の小学校最後の運動会。車椅子の娘は大勢の子どもの中にもすぐに見つけられます。組体操は、先生や友達に抱かれたり、友達が車椅子の上に乗ったり、友達の上に乗せてもらったりと、さまざまな形になり、時には娘を見失いました。子ども達と一緒に考え力を合わせて作り上げてきました。「ともに」を積み重ねてきた6年間を見ることができたと感じた組体操でした。子ども達に拍手！(M)